



営農指導課 井口 晶平

柿

柿の樹は放置すると数メートルの大木になってしまいます。枝を剪定せずに葉が茂ると日光が十分に当らず、美味しい柿は実りません。適正な樹形にして、高品質の果実の収穫をめざしましょう。

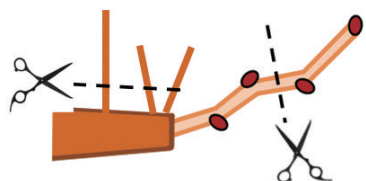
剪定の方法

下記番号順の優先順位で剪定する

①主枝先端の枝を切り返す

(1つの樹体で3本程度)

- 太くて長く、斜め上を向いている枝を選ぶ
- 半分くらいの長さに切り返す
- 周辺の枝を根元から切る



②徒長枝を処理する

- 主枝や垂主枝から出ている、上向きの太い枝(幹の根元に多い)を根元から切る
- 徒長枝を放っておくと、徒長ばかり出てくる枝(立ち枝)となり、元枝を弱らせてしまう

③目標を決める

結果母枝同士が30cm程度離れるようにする

④不要な枝を間引く

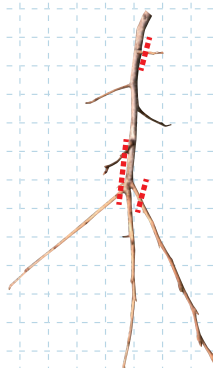
1. 病害虫の被害がある枝は切る
2. 極細・極短枝(10cm以下の枝)は、充実した花が咲かないので切る
3. 極太・極長枝(40~60cm以上の枝)は、花が咲いても生理落果してしまう可能性があるため切る
4. 実が成ったときに地面につきそうな枝、枝同士が重なって日光が当たらなくなりそうな枝を切る

<5月の枝>



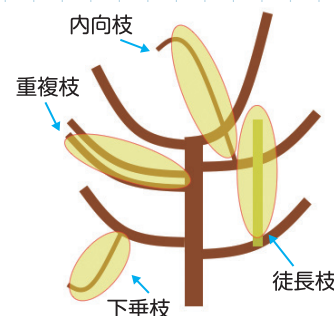
冬に残した枝の芽から、春に萌芽して伸びた枝に蕾がついている。枝の先端からしか蕾のついた枝が出ていない。

剪定では、枝同士を重ならないようにするため、春に10~30cm枝が伸びることを想定して枝を残していく。



上の枝では、先端が3本出ているため、春に伸びる枝が重ならないように真ん中の枝を残す。その他の枝は混みすぎない程度に間引く。残す枝は状況による。真上に伸びる枝は樹勢が強くなってしまう。下向きの枝は実が成ったときに地面についたり、枝が折れたりしてしまう。

<切除する枝の目安>



剪定の目的

- 作業性を良くする
- 樹全体に日光を当て、防除の薬液がまんべんなくかかるようにする
- 病害虫被害枝を取り除き、被害を小さくする
- 毎年安定した収量・品質を得られるようにする
- 樹の骨格をつくり養水分のスムーズな流動を確保する
- 生産性の高い枝を選択・確保する
- 結実と枝葉の生長のバランスを確保する

剪定の注意事項

- 主枝などの大枝を切りすぎると、樹が急激に弱ってしまう。数年かけて完成させる
- 枝の切り口には、切り口から病気が侵入しないように「トップジンMペースト」などの保護剤を塗布する
- 柿の樹は折れやすいので、樹に登らないようにする